

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079600245
法人名	医療法人 古川病院
事業所名	グループホーム 永井の里
所在地	福岡県田川郡川崎町大字川崎4927
自己評価作成日	平成23年12月17日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	財団法人 福岡県メディカルセンター		
所在地	福岡市博多区博多駅南2丁目9番30号		
訪問調査日	平成23年12月29日	評価結果確定日	平成24年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「自分の過ごされてきた環境の延長の場所～自分の家のような～」を基本に考えています。御本人は、気楽に生活を楽しまれて、御家族の方も気軽に来訪していただける、ホーム=家とし、優しく美しい環境づくりと思いやりのある人間関係(入居者およびスタッフ間)づくりを目標にスタッフ一同頑張っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

ホームは、緑が多く、人通りの少ない道路沿いに立地している。母体病院へ毎日リハビリに通院し、地域の方との関わりを持っている。又、母体病院と連携を図りながら看取りもしているので、職員は安心している。施設内は光が差し込む天窓があるため、とても明るく、又、清潔感がある。A棟にはカラオケ、B棟にはカラオケとピアノがあり、音楽を楽しむ場ともなっている。庭で犬を飼っており、入居者の癒しとなっている。入居者の希望通り、ゆっくりとした生活が営まれている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+) + (Enter+)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「介護サービスをとおして地域社会へ貢献したい」という運営理念。玄関に「運営理念」「ホームの目的」「ホームの運営方針」を掲げている。訪問された方々に伝わり易くなっていると思われる。同時に職員一人ひとりが理念に対し理解を深める様、努力している。	理念はホーム内に掲示されている。新人職員研修時には理念の説明を行い、理念に基いて指導を行っている。又、月2回のミーティングや出勤時に唱和し、実践に繋げている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等を通じて、地域とのつきあいとして、自治会への加入を目指してはいるが、あまり進展していない。地域の中の1つとしてまわりからの認識度が低い様に感じるので、今後は更に発信していきたい。	自治会への加入を会議等でお願しているが、地域の規約等により入会は出来ていない。しかし、地域の方々の協力の言葉はいただいている。又、地域のマイク放送が聞こえにくいため、室内スピーカーを取り付け、少しでも地域の情報を知ろうと努力している。	会議等で毎回自治会へ加入するための努力をしているが、会議等だけではなく、他のホームからの情報等を取り入れ、地域との関わりを深めていくことを期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、特別には「地域の人々に向けて」発信等は行っておりませんが、ゆるやかではあるものの、地域の方々へ認識を深めてもらうために、ホームでのイベント等のお知らせ等を実施していきたい。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	メンバーは、区長、行政担当者、家族代表、施設長、ケアマネージャー、管理者で構成されている。会議は2カ月に1回開催されており、ホームの現状と運営上の流れを説明している。	運営推進会議では、ホームの行事・出来事等の状況を報告している。会議の度に地域の行事・清掃等の参加希望を伝えているが、まだ実現出来ていない。敬老会の声掛けはしていただいている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政担当者とは運営推進会議以外でも行事案内や情報の提供、アドバイス等いただいている。	施設長が市町村の相談窓口を利用し、その都度情報提供や説明をしていただき連携は保たれている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関含む施設はしていない。身体拘束においては、「車椅子利用であり、転倒、転落リスクがある入居者」については、御家族の同意を得た上でベルトを使用しております。	身体拘束廃止研修を年2回行っており、職員は理解している。身体上の危険性を伴う場合はベルトを使用する事もあるが、その際は家族から同意書をいただいている。職員が目が届く場合はベルトを外して身体拘束廃止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的、精神的虐待について職員間でひんばんに話し合いを実施しています。		
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度について、認識のあまさが職員間であるので、今後は積極的に学習する事にしている。	年2回の研修にて新人職員も理解できている。入居者や家族から制度について尋ねられた場合、管理者が説明し、対応している。他の職員もスムーズに説明できるよう勉強している。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様（御家族様）にわかりやすく、説明させていただいております。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族の方（入居者の方）には気軽に意見等言っただけの様な雰囲気づくりを心がけています。また、利用費納入をしていただく際にケアマネにも聞きとり役になっています。	年2回のアンケート、年1回の家族会等で意見の聴取を行い、又、家族会へ参加されない方には電話での聴取を行うなど努力している。意見については職員会議で話し合い、お便りなどを利用し、意見の反映に努めている。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員間での意見のやりとりは、気軽にひんばんに実施されています。そういった意見や提案は常に施設長・管理者の耳に入ってきております。	食事中・ミーティング時等に気軽に意見を出しやすい雰囲気である。管理者・施設長はすぐに対応し、ホーム内で解決出来ない事は理事長に報告し、改善に努めている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務はバランス良くシフトを振りかけています。職員のモチベーションを保つため、定期的に職員間での食事会等実施しております。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員募集に関して年齢・性別・学歴等の制限は設けておりません。休日も可能なかぎり本人の希望を叶え職員の私生活に配慮された勤務体制になっております。	職員募集に関して制限はなく、現在30～60代の方が勤務している。休日の配慮もされており、職員はとても働きやすい職場だと感じている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ホームの契約書には「利用者および利用者代理人の権利」が10個謳われており、職員はそれにそったケアに取り組んでいる。また、管理者は入居者に対する「目配り・気配り・心配り」を大切にしており、言葉遣いには特に気をつけて指導している。	外部研修へは施設長・ケアマネ等が参加し、職員へはミーティング・勉強会で伝えている。特にホーム内では入居者を人生の先輩として対応し、言葉遣いには気を付けている。	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は、現場の状況に合わせて即時にアドバイスを行う様にしている。また、ホーム独自の「介護指針」「新規職員研修テキスト」を用いて、現任職員の内部研修を行っております。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	さまざまな、勉強会に職員が参加しております。同業者間でのネットワークづくりを更に強化させ、情報交換等を行い、今後のサービスの向上を目指したい。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御本人様の情報を把握し、「お話」を聞ける雰囲気づくりを行っております。御家族等に協力していただきながら信頼関係を築いております。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	「ホームでのサービスの内容・契約・重要事項説明書」の説明を明確に行います。それをもとに、御家族の要望をうかがい、信頼関係を築ける様努力しています。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用という点においては、ケアマネ、もしくは専門分野の人に相談の後に本人・家族に相談しております。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	基本的には、「自宅での生活」+「介護（お手伝い）」という考えのもとですので、「身内」の様な接触の方法をとらせていただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族と連絡・接触を密に行いながら、本人の事を理解し、家族の方（本人以外の背景）の事も理解する様、心がけております。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに入居となられると、本人はもとより、知人友人の方など疎遠になりがちになるので、気軽に遊びに来ていただける様に連絡したりしています。	面会・電話等も取り次いでいる。最近では、個人で携帯電話を持たれ、自由に連絡されている方もおられる。希望による外出等は家族の協力を得ている。独居の方で帰宅願望のある方は外出時に自宅に立ち寄る事で安心されている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとり、趣味嗜好が異なると思うので、共通の話題やおそらく出来るであろう事柄を振って、興味があるかな？と思える所が見れたら継続して試行しております。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在、特別には行っておりませんが、今後は、退居された方へ季節のあいさつ状的な事は実施していきたいと考えております。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を最優先で考えております。プラス、ホームでの生活の流れを説明した後、本人の意向により添う様に配慮を行う。	一人ひとりの思いや意向は、事前に聞き取っている。入居後は会話や家族の面会時に情報収集している。得られた情報はミーティングで情報交換し、意向に沿うように話し合っている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族等に聞きとりを行い、本人が一番楽でストレスを感じない様な生活スタイルでやっていただいております。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、チェックしております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に接触する職員と、ケアマネージャーによって意見等を持ち寄って御家族に提案し了承後介護計画を作成しております。	3か月に1回モニタリングしている。変更があればその都度、本人・家族と相談し、職員による細かい情報を取り入れながら、計画を立てている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ケアケース記録を毎日とらせていただいております。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとり、考えや思いは違うので、その都度、聞きとり等を行いながら、接しています。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の現状を知らせたり、広報誌を提供したりしています。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームはかかりつけ医として母体の病院があるので、大体はそちらの方へ受診をされています。専門医等においては本人・家族の方の意志を尊重し、受診していただく様にしています。	入居される際に、かかりつけ医として母体病院を希望される方が多い。受診時には職員が付き添っているが、家族の付き添いも可能である。他科受診も同様である。受診後は必ず家族へ報告している。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当ホーム・かかりつけ医院の看護職員が毎日必ず、ホームに来訪するので、その都度情報の提供はしております。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	当ホーム入居者の情報はかかりつけ医にも分かる様、情報の共有をはかっております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	かかりつけ医との連携を実施。当ホームは看取り介護を行っております。	ターミナルケアについては入居の際に説明をし、時期をみて同意書をいただいている。職員も看取りの研修を年2回受講しており、理解している。母体病院の医師・看護師にはいつでも連絡できる体制が出来ている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	基本的な訓練は定期的実施しております。		
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防の方が訓練の為、来訪していただいております。入居者、職員、避難訓練を実施しております。万が一の時は地域(区長)連絡ができる心がけています。	防火訓練は消防署の方も参加され年2回、地震訓練は年1回行っている。マニュアルに沿って訓練が行われている。災害時の職員間の連絡網も出来ており、訓練もしている。又、ボタン一つで消防につながる器機を設置し、通報が早くなる事で職員も安心できている。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉づかいや言動においては、「年長者と家族とお客様」を理解した上で、失礼の無い様な言動を心がけております。	その人に合った対応をしている。特に排泄の際は家族であっても本人のプライバシーの為に席を外していただいている。又、言葉遣いにも気を遣っている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に、声かけ等を行い、職員に対し話しやすい環境を心がけております。何でも言っていただける様な状態だと思います。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な生活リズムはお知らせしますが、本人の意向を有先させていただきます。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人におまかせしておりますが、支援が必要な方にはお手伝いさせていただきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は、大まかな所は職員主体にて調理準備行っていますが、野菜の皮むきや下膳など出来る方は自発的にやっています。	食事は毎食手作りしている。入居者の方々の希望を聞いて献立をたて、旬の物を取り入れ、季節を感じながら楽しく食事されている。又、通常食が困難な方はミキサー食に変更している。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べものの嗜好や形状などは、一人ひとり考慮して出させていただいております。水分摂取を積極的に行われない方はその都度、支援させていただいております。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	御自身で口腔ケアをされる方は、見守り等させていただくこともあります。出来る方はおまかせしております。難しい方は支援させていただいております。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	御自身で行える状態のうち、プライバシーには注意し、支援させていただいております。おむつ等使用されている方についても同様にプライバシーには気をつけて行わせていただいております。	排泄については、身体機能に関係なく訴えがあれば必ずトイレ誘導を行っている。訴えの無い方でも、立位可能であれば時間を設定し、トイレ誘導を行っている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘ぎみの方には、水分摂取量を増やしたり、牛乳等、飲みものを変えてみたり、下剤の服用をうながす、軽い運動をしていただいたりしています。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	現在、日中、主に午後から入浴時間になっています。が、その日の気分体調等によって変動・中止があります。あくまで、入居者様の意向にしたがっていますのでおまかせしております。	1日毎に午後より入浴し、入居者同士のトラブルが無いように順番を決めている。本人が希望すれば、毎日入浴も可能である。又、ストレッチャーが必要な方は母体病院の機械浴を利用している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室等で休憩等は御自由におまかせしております。夜間就寝時等不眠訴え等ある入居者様はかかりつけ医受診時に安定剤等の処方を受け、ゆっくりお休みいただいております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理はかかりつけ医指示のもと正確に行っており、変化等ありましたらその都度、Drに指示をいただいて対応させていただいております。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとり、楽しめる事柄を毎日の会話の中で、探し出すように心がけています。		
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	基本的にはお一人での外出はされておりませんが、御家族同伴やホーム内のイベント等において、外出(ドライブなど)行っております。	月曜日～土曜日まで母体病院へリハビリに行かれている。買い物支援は職員の手の空いている時間に行っているが、間に合わない時は、職員間で購入する事を入居者に理解していただいている。美容師の訪問もあるが、希望の美容室がある方は家族と外出されている。	本人の意向により外出されていない方にも、声掛けの工夫を行い、少しでも外気浴をされるよう支援していくことを期待する。
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方についてはおまかせしております。ホーム内におきましては、あずかり制度を実施しておりますので、御自分では自信の無い方等は預らせていただいております。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	基本的に自由に電話等は可能です。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家の雰囲気を保ったまま、不快にならないようなレイアウトを実施しております。入居者様より特別、意見はいただいております。	天窓から光が差し込む事で、室内がとても明るく感じられ、清潔感がある。季節の装飾品はみられるが、入居者の安全を考え最小限となっているため、寂しく感じられる。	入居者が物を扱われたり、持ち運びされる事があるので最低限の飾り付けとなっているが、空いたスペースに飾り付けをしたり季節感のある物を置いたりする等の工夫を期待したい。
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間内に、食卓・ソファ・TV・たたみ敷きのスペースがあり、各々、TVを見たり、新聞を読まれたりされています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人・御家族の意向で行っております。	本人の希望で、入居前に使用されていた物を居室へ持ち込まれており、整理整頓されている。窓のブラインド使用困難な方にはカーテンを使用しており、その人に合った居室となっている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部・レイアウトに関して、特に難しくなくシンプルな配置で行っております。		